

平成24年度 第4回平田地域協議会 会議録（要約）

1. 日 時／平成25年2月7日（木）午後1時30分～午後5時15分

2. 場 所／飛鳥中学校（改修工事の状況を視察）、平田総合支所302号室

3. 出席者／（1）1号委員（団体推薦委員）

奥山仁委員、阿曾智子委員、伊藤市太委員、菅原律子委員（副会長）
堀弥志男委員、長谷部耕次委員、加藤勝子委員、庄司美智子委員

・・・計8名

（2）2号委員（識見委員）

阿部敬子委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・計1名

（3）3号委員（公募委員）

石黒由香委員、富樫文雄委員（会長）・・・・・・・・計2名

（4）酒田市教育委員会

池田成男管理課長、川島真学区改編推進主幹、井上太社会教育課長

・・・計3名

（5）酒田市平田総合支所

石川忠春支所長兼市民福祉課長、土田瑞穂地域振興課長、
高橋弘建設産業課長、地域振興課 大石充明地域振興課長補佐、
佐藤雄二地域振興主査、地域振興係 伊藤芳調整主任、
小松原毅地域振興主査兼係長（会議録作成者）・・・・・・・・計7名

出席者合計21名

4. 欠席届／（1）1号委員（団体推薦委員）

阿曾重雄委員、土田伸委員

（2）2号委員（識見委員）

石黒均委員、阿部彦悦委員・・・・・・・・・・・・・・・・計4名

5. 次 第／地域協議会の会議に先立ち、飛鳥中学校において改修工事の状況を視察

（1）開会

(2) 平田地域協議会 会長あいさつ

(3) 平田総合支所 支所長あいさつ

(4) 会議録署名委員の選任

(5) 報告

①飛鳥中学校改修工事について

②積雪等の状況について

③平田総合支所における窓口ナイトサービス業務の終了について

④平成25年度 地域づくり予算(案)等について

⑤地域協議会委員の改選について

⑥平田・八幡・松山地域における合併後の再評価について

(6) その他

(7) 閉会

6. 会議録／(1) 開会

▶土田地域振興課長

(2) 平田地域協議会 会長あいさつ

▶富樫会長

本日は足元の悪い中、飛鳥中学校の視察も含めた地域協議会に出席いただき、感謝申し上げます。また、教育委員会の各課からもおいでいただき、ありがとうございます。

今日は委員の皆さんから、中学校の工事の状況を見ていただいた。2年間で学校を統合しなければならないという厳しい現実もあるが、未来を担う子どもたちの健全な成長を夢見て、関係者だけではなく、いろんな形でご協力いただけるようお願いしたい。

酒田市長が本間市長へと変わった。新市長が所信表明の中で言っていた、「チームワーク」「ネットワーク」「フットワーク」という「三つのワーク」を紹介したい。チームワークは、広く市民の意見を聞きながら、地域が一丸となった厚い結束で市政を運営していくということ。ネットワークは、産業分野、教育分野での人材育成を進めるとともに、国、県、経済界、関係団体とのパイプを築いていくということ。フット

ワークは、現場主義を徹底し、政策を効果的な時期に戦略的に実行して
いこということであった。新市長はこれから4年間、この三つのワーク
で皆さんと心をつなげながら、酒田市の市政や市民の課題を真摯に受
け止め、がんばりたいとのことであった。私たちも期待をしながら、市
民として、いろんな形で提案や要望を行っていききたい。

私も含め、皆さんも委員としての任期が3月で終了する。この2年間、
皆さんと一緒にいろんな展開をさせていただいてきたが、まだまだ
達し得ていないという現実がある。平田地域には大変大きな課題があ
り、中山間部においては、具体的な事業として展開しようとしているも
のもある。皆様からは、なおいっそうご研鑽を積み、地域づくりに向
かって一緒に頑張っていきたい。よろしくお願い申し上げます。

(3) 平田総合支所 支所長あいさつ

▶石川支所長

皆様、大変ご苦勞様です。

ただ今は、飛鳥中学校の工事の状況を視察していただいた。統合に向
けた今後の予定など、これから教育委員会の説明もあるが、いろいろ意
見交換をしていただきたい。昨年は大雪から始まり、爆弾低気圧もあつ
たが、一昨年のような大雨による土砂災害といった大きな災害もなく、
猛暑ではあったが、比較的穏やかな年でなかったかと感じている。現在
の積雪もさほど多くはなく、4月まであと2か月足らず、このまま推移
してもらえればと思っている。

今日の報告事項の一つに、窓口ナイトサービス業務のことがある。こ
れは、合併前から行っていた窓口業務の時間延長を、合併後も平田地域
特有の業務としてして行ってきたというものである。しかし、最近の状
況の変化に合わせ、終了したいということであり、後程詳しく説明させ
ていただきたい。今、ちょうど予算編成の時期であるが、平成25年度
の予算も固まり、3月議会に向け作業を進めている。皆様方から検討い
ただいた地域づくり予算についても、報告させていただきたい。

また、富樫会長からもあったが、この3月で地域協議会委員の任期が
終了し、改選が行われる。この2年の間、委員の皆様からは過疎計画の
策定に向けてご意見をいただき、その過疎計画に盛り込むことができな
かった事業も含め、平田地域として目指す将来像をご検討いただき、地
域ビジョンをまとめていただいた。この地域ビジョンに基づき、これか
ら地域の活性化に向けた取り組みを行っていくことになる。この2年間、
本当にありがとうございました。

富樫会長もあいさつの中で、新市長の所信表明に触れられたが、市長

はこの所信表明で、3 総合支所地域、特に中山間部の振興ということについても述べている。また、合併後7年が経過した中で、良くなったところ、あるいは課題が解決できていないところなど、平田、八幡、松山地域について、再評価を行う作業に取り組むとしている。この再評価の中から出てきた課題の解決に向けては、当然必要な施策は行っていくという考え方であり、再評価の進め方についても説明させていただく。限られた時間ではあるが、よろしくお願いいたします

(4) 会議録署名委員の選任

▶富樫会長

会議録署名委員に、阿部敬子委員を選任いたします。

(5) 報告

①飛鳥中学校改修工事について

▶池田管理課長

報告の前に、まずお詫びをさせていただきたい。工事を進めていくうえで、学校、教育委員会管理課、市建築課、建設業者の4者で週一回定期的に工事の進め方などについて打ち合わせを行っている。お詫びさせていただきたいというのは、管理棟のトイレ工事の際、ブロック作りと捉えてところが鉄筋が入っており、大きな音が出てしまったことについてである。生徒の皆さん、先生方にも大変ご迷惑をかけてしまった。ご家庭の保護者の皆様にも話が届き、心配されたのではないかと思います。本当に申し訳ありませんでした。この場をお借りして、お詫び申し上げます。

(以下、資料に沿って工事内容について説明)

▶堀委員

一期工事については、保護者、生徒、学校、教育委員会も含めて順調にきていると思われる。これから二期工事に入るということだが、小さなことでも、保護者や学校からの要望を十分に聴いていただき、できる限り満たせるよう努力してもらいたい。

▶池田管理課長

昨年4月に、初めてPTA会長、副会長と話し合った席上でも、「PTAと話をしながら進めてほしい」との要望を出されている。それはしっかりと心に受け止めており、そういうことをしながら進めてきたつもりでいる。これからも、皆様からご意見をいただきながら進めていきたい。

▶伊藤委員

P T Aで何項目か要望を出したということであったが、その要望に対しての回答があれば、情報として伝えてもらいたい。

▶土田地域振興課長

P T Aから教育委員会に出された要望書と回答については、昨年のうち各委員へ送付している。

▶伊藤委員

その後、また要望を出したということではなかったか。

▶池田管理課長

要望書としては昨年9月に提出されており、それに対して教育委員会として回答している。その後、具体的なものはいただいているが、先ほどご覧いただいた理科室の床などは、学校、教育委員会管理課、市建築課で打ち合わせを行った際に、薬品が落ちても大丈夫な床材にもらいたいとの要望があり、その結果ああい床材になった。

また、P T A役員との話合いの中で、新しく作られる三つの教室に入る生徒は、体育館のトイレができるまで今の教室棟のトイレまで行かなければならず、それでは遠いということで、新しく作った職員用のトイレを生徒も使えるようにすることにしている。このように、これからもP T Aや学校と話し合っていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

▶富樫会長

先ほどの二期工事の説明では、新しい体育館を一部2階建てで設計するということがあったが、P T Aからの要望書に対する回答とは違っているようなので、ご説明いただきたい。

▶池田管理課長

このことについては、P T Aから要望書が出される前から検討しており、学校とも話をしていた。施設的には、今の飛鳥中学校だと少し余裕が足りなくて、新たな教室も三つ作るわけだが、将来的には徐々にクラスの数も減っていく。

しかし、今の子どもたちが活動する場ということを考えたときには、ちょっと不足となる。学校との話合いの中で、様々な形で別れて勉強する場も多々あるということを伺い、そうした場合に、ちょっと足りなくなるのではということもあって検討していた。もう一つ、柔道が必修化されるということもあり、年間10時間ということだが、教育環境の整備といった面でも検討していた。さらには、他校との均衡というか、大規模校になるが、三中であれば柔道場のスペースがあるといった比較も、検討材料として考えていた。

そうした最中の要望であったので、今の時点ではできないという回答

になった。検討というような一文でもあれば良かったのかもしれないが、予算の裏付けや、組織としての意見集約がなければはっきりと申し上げられないし、様々な手順も踏まなければならない。こうした経緯があったことを報告させていただきたい。

②積雪等の状況について

▶高橋建設産業課長（資料に沿って説明）

③平田総合支所における窓口ナイトサービス業務の終了について

▶石川支所長（資料に沿って説明）

▶堀委員

ただ今の説明を受けるまで、電話で証明書の交付が予約できるということを知らなかった。年間の利用が40数件ということで、経費の削減ということも分かるが、サービスが低下したということにもなりかねない。電話でも予約できるということを、地域住民に周知してもらいたい。

▶石川支所長

おっしゃる通りである。平田地域においては毎週月曜日に窓口ナイトサービスという制度があったため、電話予約による土曜、日曜の交付については積極的なお知らせはしておらず、PR不足であった。窓口ナイトサービス業務の終了については、広報、総合支所の窓口における掲示、チラシなどでお知らせしていくが、合わせて代替的なサービスについても周知を図り、サービスの低下にならないようにしていきたい。

④平成25年度地域づくり予算（案）について

▶土田地域振興課長（資料に沿って説明）

▶高橋建設産業課長（資料に沿って説明）

▶長谷部委員

前回の地域協議会において示された、平成25年度予算の要求状況と今回示された予算案を比較すると、変化がないのは1番の「地域協議会運営事業」だけであり、以下2番、4番、5番、6番が減額、3番、7番が増額、8番の事業がなくなって、今までになかった9番の「里山さかた交流人口拡大事業」の181万円というのが大きく目立っている。前回に示された、予算要求というものの骨子はすべて崩れている。このように減額項目が多いと、あの時の議論はいったい何なのかということになる。

7番と9番で増額するのだとすれば、減額という形で他の事業に影響させず、新たに増額予算として取るべきである。新たな事業を立ち上げ

るために他を減額するというのであれば、我々が地域振興の議論していく意味がないと思う。これでは、この地域の発展に向けた様々な事業は守れない。「庄内ひらた目ん玉祭り」の、18万円の増額要求についても落ちている。だとすれば全然地域の振興が考えられない。後退の一途しかないということである。

7番の「都市・農村農業体験交流推進事業」も大いにやるべきである。これはこれでいいのだが、他をこんなに削らず、増額を認めてもらうのが私は一つの努力だと思う。この案だと、そういう努力の経緯は何も見えず、最終的な帳尻合わせだけが見えていると感じているが、このことについてはいかがか。

▶土田地域振興課長

長谷部委員からは、予算要求に対して今お示した予算案という内示の状況が、事業ごとに減額が多いというご指摘であった。一つひとつの事業の中身は様々であるが、市全体の予算を編成する上で、ぎりぎりのところで事業に取り組んでいかなければならないということがある。たとえば「青少年国内外交流事業」であれば、単純に1万5千円の減額ということでもなく、海津市へ訪問する場合と迎え入れる場合とではまったく異なる事業内容となる。結果的に、平成24年度とあまり変わらない金額とはなっているが、内容的にも精査して経費削減を図っている。

市の財政もそんなに豊かではないということからして、予算は若干少なくなっているとしても、こちらの考えている内容をできるだけ崩さない形で事業を実施したいと思っている。結果的には、里山さかた交流人口拡大事業という新規事業で帳尻が合っている形にはなっているが、新しい事業が認められたということで、間口が少し広がった面もあり、金額だけにとらわれずに事業はできると考えている。

▶長谷部委員

財源を伴わないでやれる事業があるのか。項目が広くなり、表現できる事業が多くなったという表現では納得できない。合併以降7年もやってきた事業について、減額の影響がないように実施するという説明であったが、私は所詮無理がくると思う。こういう時に我々地域協議会が、どういう腹を据えた議論をするかということになるのだと思う。

▶石川支所長

予算要求の仕方と予算の組み立て方として、予算要求する際には積み上げて要求する。査定する際には、他の事業も見ながら削減に入る。財政課とのやり取りの中で、「消耗品を少し何万円か減額してやってくれ」というようなことは、どの事業にもある。たとえば、「ふるさと会交流促進事業」ように、旅費が減額になったというようなことは常にあり、

地域づくり予算だけが満額つくということは、大変なことだと理解していただきたい。そうした中で説明しながら、何とか事業を実施できるだけの予算は確保できたと思っている。

里山さかた交流人口拡大事業については、地域の状況も変化している中で、今までの地域づくり予算だけを毎年継続していけばいいのかということも考えながら、地域づくりや中山間部の活性化のための新たな事業として組み立てて要求した。この事業を実施するため、予算要求の際にも十分に説明し、こういう査定となった。前回皆様方にお示した内容と内示のどこが違うのかといえば、先ほど例にあげた消耗品等とか旅費もあるが、まずはこの新たな事業で何とかやっていきたいし、活性化につなげていきたいと思っている。

▶長谷部委員

まずは聞いておき、これからの推移も見ながら議論していきたい。財源が厳しいということだが、合併したことで合併特例債の活用も可能となった。市庁舎であっても下水道の関係であっても、20年という長期で見ていたものが10年で完成できるというのも、合併のおかげである。この地域協議会においても、この地域に合併した効果を出していきたいという議論を展開していくべきである。

▶菅原副会長

地域づくり予算については、唯一の地域活性化に向けた予算だと捉えている。私どものコミュニティ振興会でも、庄内ひらた目ん玉まつりの予算が少し上がると期待して話し合っていたのだが、こういう結果になったことは本当に残念である。

里山さかた交流人口拡大事業は180万円ほどの大きな予算であり、新規事業として小学校の自然教室をメインにしたような内容が載っているが、今年の夏ということで、もう間もなくその活動時期となるわけだが、これから組織を強化するとか人材を育成するとかで間に合うのか。どういった事業の構想となっているのか。

▶土田地域振興課長

里山さかた交流人口拡大事業で行う自然教室については、昨年も地元の小学校から「ひらた生涯学習センター」に宿泊してもらい、試験的に実施している。平成25年度の事業は、その時の経験や反省を踏まえ、より充実させたいと思っている。予算については、野外炊飯を行う際の洗い場の予算を盛り込んでいたり、ご指摘のあった人材については、昨年は職員だけで対応したが、来年度は地域の方からもご協力いただきたいと考えており、人件費も入っている。自然教室なので、野外で様々な活動を行うわけだが、すでに平田地域にはいろいろな団体があるわけで、

そういった団体からご協力をいただいている事業展開を考えている。

▶菅原副会長

中山間部の活性化については、地域協議会でもこれまでずっと話し合ってきたことである。人材については、単年度ごとに人を頼んで対応するというのではなく、きちんとインストラクターを養成していくという考えはないのか。

▶土田地域振興課長

昨年、地域協議会で視察した「しらい自然館」では、自然体験的な受け入れも行っているということであった。遊佐町では組織づくりもしており、その組織にはインストラクターの資格を持っている方もいると伺った。ひらた生涯学習センターにおいても、ゆくゆくはそういった形に近づけていきたいと思っている。

▶阿部敬子委員

里山さかた交流人口拡大事業について、昨年行った「ふれあい支援農道ウォーキング大会」が一定の評価を得たということで、中山間部の活性化やひらた生涯学習センターの活用拡大という事業が出てきたことをうれしく思っている。この事業をうまく進めていければ、ひらた生涯学習センターの今後の展開も見えてくるのではないかと、期待しているところである。

▶土田地域振興課長

里山さかた交流人口拡大事業については、中山間部における交流人口を拡大し、活性化につなげたいというソフト事業であり、継続して取り組んでいきたいと考えている。この事業による交流人口の拡大も見ながら、ひらた生涯学習センターのハード整備についても検討していければ、理想的であると考えている。

▶石黒由香委員

ひらた生涯学習センターは、まだまだ可能性を秘めている施設であり、地域とも意見交換をしながら、素晴らしい施設にしてもらいたい。

▶阿曾智子委員

私も阿部委員と同意見で、ひらた生涯学習センターを多くの方から活用していただけることは、とてもありがたいと思っている。事業内容に委託とあるが、私が見てきた中で、事業を委託すると、そこにすべてを任せてしまい、担当者が関りを持たなくなるということが往々にして見られる。そのあたりは、官民一緒になって事業を進めるべく、担当職員の意識づけをお願いしたい。

▶土田地域振興課長

貴重なご指摘と受け止める。この事業の内容に委託とあるが、丸投げ

のように委託することはない。特に自然教室の受け入れについては、地域振興課の職員が主体となって展開していきたい。講師など団体等からご協力いただく部分もあるが、主体は地域振興課となる。委託を受ける側から頑張らせていただく部分としては、「里山平田ガイドマップ」の修正や、地域資源のPRなどである。

▶庄司委員

「花いっぱい運動推進事業」についてだが、夏の暑い時期に公共施設や道路のそばにきれいな花が咲いていると、大変心が和まされる。今回の説明では、市全体の都市構想の中で苗から種へ移行したいということであった。現在は育てやすい苗を自治会で受け取ってきて、老人クラブや自治会で管理しているのだが、種からとなると、うまく育てないと良い花が見られないのではないかという心配もある。せっきくの予算なので、きれいな花が咲かないということのないようにしてもらいたいし、管理方法の指導についても考えてもらって、始めていただきたい。

▶高橋建設産業課長

おっしゃる通りである。この事業には皆さんからボランティアでご協力いただいております、皆さんのやりやすい形で参加していただきたいと思っている。ただ、市全体の美化サポーターの考え方も踏まえ、切り替える所は切り替えていってほしいというようなこともあり、常時人がいるような公共の施設などについては、種だけということではなく、種と育苗キットの配布といった形で何とか対応していただきたい。自治会については、これまでどおり苗からという形で向けられると考えている。

⑤地域協議会委員の改選について

▶土田地域振興課長（資料に沿って説明）

▶奥山委員

田沢では自治会の総会が、遅い所では3月の第4日曜に開かれる。その後にはコミュニティ振興会の役員や地域協議会への推薦が決まる。団体推薦の期限が2月28日までとなっているが、できれば3月下旬にできないか。

▶土田地域振興課長

市内部の手続きのこともあって、2月末を期限とさせていただいた。3月末というのは難しいとは思いますが、コミュニティ振興会や他の推薦団体とも相談させていただき、推薦期限について改めて連絡させていただきたい。

⑥平田・八幡・松山地域における合併後の再評価について

▶土田地域振興課長（資料に沿って説明）

▶長谷部委員

私も市長に対し、検証委員会による住民検証ということを申し上げてきた。ぜひぶれることなく、しっかりとした検証体制を作ってもらいたい。

(6) その他

▶加藤委員

今年は、一人暮らしの方の除雪がきちんとできているということで感謝している。

▶堀委員

自治会に対する支援について、私もこの地域協議会で発言してきた。しかし、自治会運営費補助金は予定どおり減額され、間もなくゼロに等しい金額になる。自治会運営費補助金について、現在どのように考えているのかお聞きしたい。

▶土田地域振興課長

自治会に対する支援については、自治会長会からも強く要望されている。それを受け、平成24年度、市全体の自治会に対する支援の在り方について、まちづくり推進課を中心に検討してきている。その前段として、自治会長に対するアンケート調査も行った。当初は、平成26年度から全市一律の基準に統一をする方向で進んできたが、平成25年度に、ある程度の見直しが図られると聞いている。

(7) 閉会

▶菅原副会長

本日は長時間にわたっての地域協議会、本当にご苦労様でした。今回をもって、平成24年度の地域協議会、また私たち2年間の任期における地域協議会がすべて終了した。ご協力、大変ありがとうございました。